

ルクセンブルク経済・金融情勢（2015年4月後半）

1. 経済

- 世界経済フォーラムによるグローバルICT指標（Networked Readiness Index）によると、対象となった143か国中9位。3年間で12位順位が上昇。（17日付ヴォルト紙電子版）
- カーゴルクス社、オマーン航空との間でジョイントベンチャー協定に16日に署名。カーゴルクス社にとっては、オマーン航空機の容量を利用することなどが可能に。（20日付カーゴルクス社プレスリリース）
- 国立開発金融公庫（SNCFI）と欧州投資基金が共同で資金拠出する「ルクセンブルク・フューチャー・ファンド（Luxembourg Future Fund）」が、21日設立。SNCFIが120百万ユーロ、欧州投資基金が30百万ユーロを拠出する計150百万ユーロの資金で、中小企業によるイノベーションを支援する予定。（22日付ル・コティディアン紙）
- 2015年3月の失業率は6.9%（前月は7.0%、前年同月は7.1%）。（23日付統計局及び職業安定所プレスリリース）
- 24日の政労使協議の合意を踏まえ、27日、政府は育児休暇中の手当増額措置を発表。これまでは月額1,778ユーロ固定であったものを、給与額に応じて1,922ユーロから最大3,200ユーロが支給される。カエン家族相は夏までに法案を提出の意向。（24日及び27日付ヴォルト紙電子版）
- プライベートジェットビジネスを行う当国Luxaviation社、中国の投資会社である中国民生投資（China Minsheng Investment）と協定を締結。ルクセンブルクに拠点を有するLuxaviation社によるアジア市場展開を可能とすることが目的。（28日付ル・コティディアン紙）
- ルクセンブルク政府、国民議会での質問に回答する形で、2014年に外部監査・コンサルティング費用として2.2百万ユーロを支出した旨公表。今年度予算を「次世代予算」として位置づけるためのマッキンゼーに対する業務委託が最も大きい支出額。（28日付ヴォルト紙電子版）
- OECDによるルクセンブルクのイノベーション政策レビュー報告書が25日公表され、2007年と比較し研究開発費に係る公的支出が2014年には2倍以上に増額された結果、生命医療及びITセキュリティに関する最先端の研究センターを持つに至ったと評価。一方で省庁間調整、研究センターとルクセンブルク大学間の関係強化等につき改善の余地ありと指摘。（25日付OECD）
- カーゴルクス社、2014年決算を29日に発表。収益は2,098百万米ドルで前年比10.1%増。利益は3百万米ドル。IATAの統計によると、

2014年末時点でカーゴルクス社は航空貨物業界で世界第7位、航空貨物専門企業としては欧州最大。世界シェアは3.7%。(29日付カーゴルクス社プレスリリース)

●中国人民銀行により、人民元適格国外機関投資家域内証券投資試行弁法(RQFII)に基づく500億元の投資枠がルクセンブルクに29日付で付与。これにより、ルクセンブルクの機関投資家が中国国内の資本市場に直接投資することが可能に。(29日付財務省コミュニケ)

●グラメーニャ財務相、欧州セメスター制に則って欧州委員会に提出するルクセンブルクの安定計画及び国別改革計画を30日に公表。(25日付財務省・経済省コミュニケ)

2. 金融

●ルクセンブルク保険会社協会(ACA)の年次報告によると、当国保険業界による2014年の保険料収入は264億ユーロで、前年比18.8%増加。(29日付ル・コティディアン紙)

3. 政府

●グラメーニャ財務相、16日から18日にかけてワシントンで開催のIMF・世銀春季会合に出席。中国の樓財務相を含む各国財務相等と会談。(20日付財務省コミュニケ)

●グラメーニャ財務相、リガ(ラトビア)開催のユーログループ及び非公式EU財務相会合に出席(24日及び25日)。(22日付財務省コミュニケ)

●ベテル首相、23日にエッティンガー欧州委員(デジタル経済・社会担当)とルクセンブルクにて会談。(23日付メディア通信総局コミュニケ)

●ギヨーム皇太子同妃両殿下、シュナイダー副首相兼経済相による経済ミッションを率いて27日から30日にかけてモロッコ及びチュニジアを訪問。(24日付経済省コミュニケ)

●ベテル首相、27日にカタイン欧州委員会副委員長(雇用・成長・投資・競争力担当)とルクセンブルクにて会談。(28日付政府公報)

※ 当国政府機関の公表資料や各種報道等の公開情報を取りまとめたもの。